

## 授業の考察 < 中学校 > 「トラブルにならないような話し方を練習しよう」

### 考察の視点

支え合う人間関係を築くための支援の在り方として、ピア・メディエーションに関する活動プログラムの開発をしてきました。この活動プログラムの有効性について、中学校5時間の授業を、以下の、の2点を視点に考察します。

#### 授業の考察の視点

本時のねらいを達成できたか  
次時につながる内容であったか

なお、考察のために抽出した生徒の記述については、ワークシートと振り返りシートの記述を直接引用しています。

### 本時のねらいを達成できたかについての考察

は成果、は展開案やワークシート等の修正等に関する内容です。

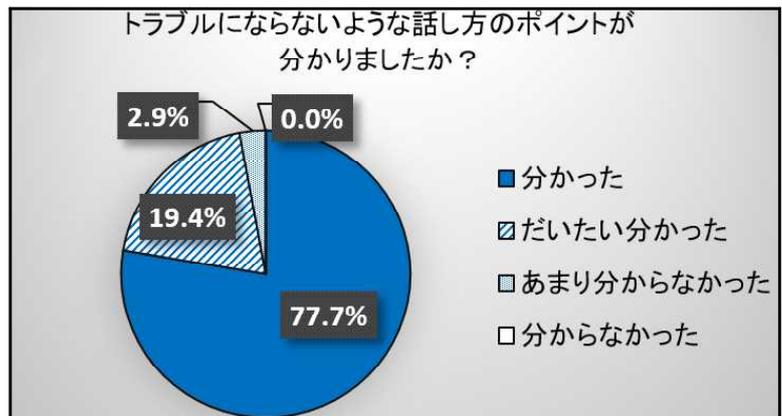
本時のねらいを達成できたかを、次の表1の「本時のねらいを達成することができたかを判断する目安」を基に、ワークシートの記述及び振り返りシートの結果と記述から考察します。

表1 本時のねらいを達成することができたかを判断する目安

- ・振り返りシートの質問項目「トラブルにならないような話し方のポイントが分かりましたか」で、「分かった」「だいたい分かった」の合計が80%以上であること
- ・振り返りシートの質問項目「トラブルにならないような話し方のポイントに気を付けて練習できましたか」で、「できた」「だいたいできた」の合計が80%以上であること

#### 1 トラブルにならないような話し方のポイントの理解について

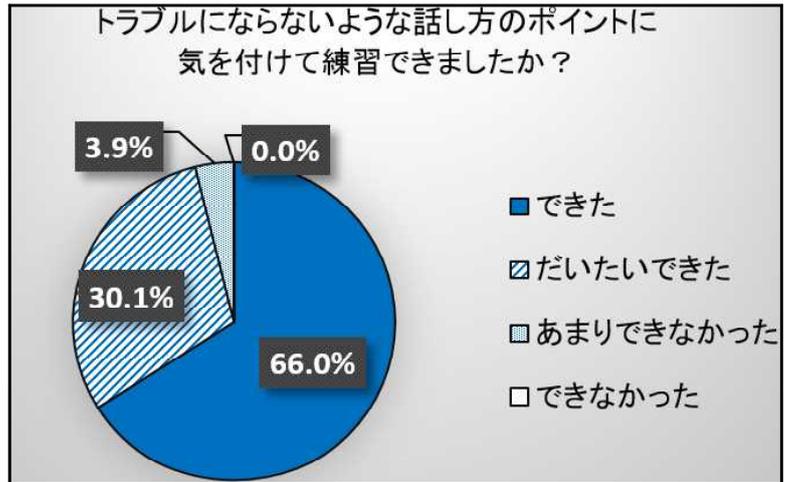
振り返りシートの「トラブルにならないような話し方のポイントが分かりましたか」の質問に対して「分かった」「だいたい分かった」と回答した生徒の合計は97.1%でした(資料1)。ほとんどの生徒がトラブルにならないような話し方について理解することができました。



資料1 トラブルにならないような話し方のポイントの理解についてのアンケート結果(振り返りシートより)

2 トラブルにならないような話し方の練習について

振り返りシートの「トラブルにならないような話し方のポイントに気を付けて練習できましたか」の質問に対して「できた」「だいたいできた」と回答した生徒の合計は96.1%でした。ほとんどの生徒がトラブルにならないような話し方について、その練習を通して理解を深めることができました（資料2）。



資料2 トラブルにならないような話し方のポイントを意識した練習についてのアンケート結果(振り返りシートより)

生徒にとって身近な掃除の場面を設定し、生徒は4つのポイントを使った台詞づくりに取り組むことができました（資料3）。

	トラブルにならないような話し方のポイント
A: ( バケツの片付けしないと ) B: うん。	①事実(問題)の確認をする
A: ( 毎日片付けているから、たまには他の人にやらせたいな ) ( Bさんにたまには片付けしてほしいな。 )	②自分の気持ちを伝える ③相手にどうしてほしいのかを提案する
B: ...	
A: ( じゃあ、交代交代に片付けをこれからしよう！ )	④解決につながる提案をする

資料3 トラブルにならないような話し方のポイントを使った生徒の記述(ワークシートより)

以上のことから、生徒はトラブルにならないような話し方についての理解を深めるとともに意欲的に練習に参加しており、本時の授業が本時のねらいを達成する内容であったことが分かりました。

次時につながる内容であったかについての考察

は成果、 は展開案やワークシート等の修正等に関する内容です。

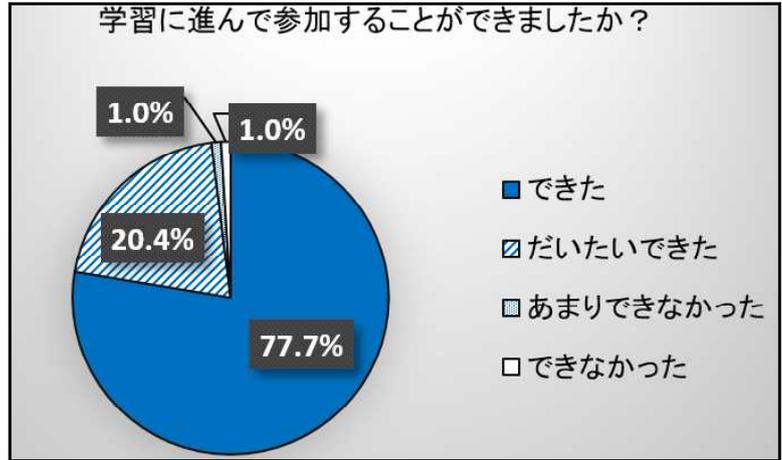
次時につながる内容であったかを、 の本時のねらいを達成できたかについての考察と併せて、次の表2の「次時につながる内容であったかを判断する目安」を基に、ワークシートの記述及び振り返りシートの結果と記述から考察します。

表2 次時につながる内容であったかを判断する目安

・振り返りシートの質問項目「学習に進んで参加することができましたか」で、「できた」「だいたいできた」の合計が80%以上であること
・振り返りシートの質問項目「今日の学習の前後で、トラブルにならないような話し方についての理解や考え方が変わりましたか」で、「変わった」「少し変わった」の合計が80%以上であること
・振り返りシートの質問項目「今日学習した内容をこれからの生活に生かしていきたいと思えますか」で、「思う」「少し思う」の合計が80%以上であること

1 学習に進んで参加することができたかについて

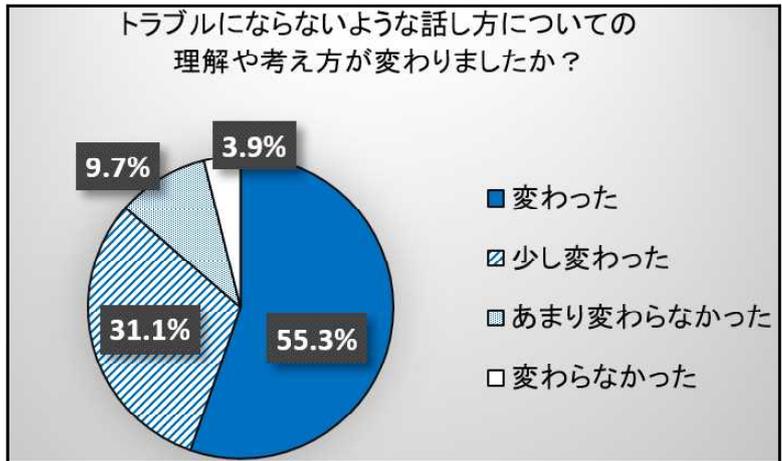
振り返りシートの「学習に進んで参加することができましたか」の質問に対して「できた」「だいたいできた」と回答した生徒の合計は98.1%で、ほとんどの生徒が学習に対して意欲的に取り組んだことが分かりました（資料4）。



資料4 学習への参加状況についてのアンケート結果(振り返りシートより)

2 学習の前後の怒りについての考え方の変化について

振り返りシートの「トラブルにならないような話し方についての理解や考え方が変わりましたか」の質問に対して「変わった」「少し変わった」と回答した生徒の合計は86.4%で、ほとんどの生徒が学習の前後でトラブルにならないような話し方についての考え方が変わったことが分かりました（資料5）。その理由として、トラブルにならないような話し方が理解できたことやそれがトラブルの未然防止に役に立つと感じていることを挙げていました（資料6）。一方、「あまり変わらなかった」「変わらなかった」と回答した生徒の中には、その理由として、トラブルにならないような話し方について「既に知っていた」「これまでも実践していた」とあり、学習した内容が再確認の意味をもつ生徒もいることが分かりました（次頁資料7）。



資料5 トラブルにならないような話し方についての理解や考え方の変化についてのアンケート結果(振り返りシートより)

最初こそ、少し怒りもあつたけれど、話し方にいろいろあることがわかっていってからは、  
トラブルにならないようにするには、  
その話し方をすればいいか分かったから。  
話し方を覚えることでトラブルが減ったと思ったから

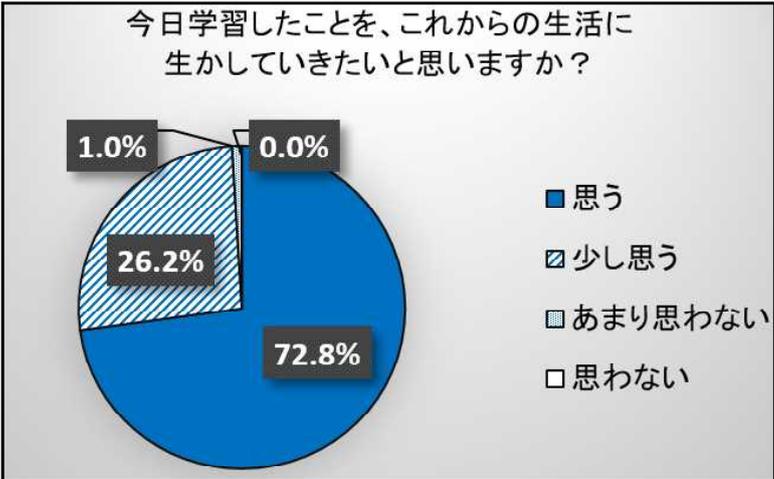
資料6 トラブルにならないような話し方についての理解や考え方が「変わった」「だいたい変わった」と答えた生徒の記述(振り返りシートより)

もとからしていたから。  
 ある程度の話し方は前から聞かされていた。

資料7 トラブルにならないような話し方についての理解や考え方が「あまり変わらなかった」「変わらなかった」と答えた生徒の記述(振り返りシートより)

3 学習内容の今後の活用について

振り返りシートの「今日学習したことをこれからの生活に生かしていきたいと思いませんか?」の質問に対して「思う」「少し思う」と回答した生徒の合計は99.0%で、ほとんどの生徒が学習した内容をこれからの生活に生かしていきたいと思っていることが分かりました(資料8)。各自で書いたシナリオを使った練習をグループで行い、他者の話し方と比較することで、普段の話し方について振り返ることができたと考えます。また、社会で必要なスキルであるとも感じていることが分かりました(資料9)。



資料8 学習内容の今後の活用についてのアンケート結果 (振り返りシートより)

今日、他人のシナリオを聴いて、いつも自分から一方的に頼み込んで、おぼろげな話し方をしてきた。この授業を通して学ぶことが生かしていきたいと思える。

自分が正しいこととしてるのか、人の演技をみて気付きました。自分の欠点を直して、トラブルの少ない人になりたいです。そして、人を傷つけることなく、解決できるメリットが99%生き方をしたいです。

社会に出ていくには、相手の気持ちもくみとりながらやらないといけないから。

資料9 学習内容の今後の活用についての生徒の感想(振り返りシートより)

以上のことから、本時の授業が本時のねらいを達成する内容であるとともに、生徒が学習に参加したり学習内容を活用したりする意欲が見られ、次時の学習につながる内容であったことが分かりました。